有機農業の世界

熊本編

◆澤村（さわむら）さんのプロフィール

昭和５３年、地元農業高校卒業後、漁業後継者として、のり、種牡蛎の輸出などに従事の他、メロンを栽培。魚や貝の漁獲量が目に見えて少なくなり、荒れていく海とホタルが消えていく地域において、農薬や化学肥料の「一振り農業」が環境への負荷が影響していることを危惧しながらも慣行農業で経営。平成１１年有機農業に取り組みを始め、関西方面の登録認定機関から有機ＪＡＳ認定を取得。

現在水稲１００ａ，有機トマト１７０ａ、有機たまねぎ１００ａ、特別栽培トマト１３０ａを栽培。今年から耕作放棄地にみかん、レモン２１０ａを植栽、畑を２００ａ開墾する予定。

澤村さんご夫婦

◆有機農業を始めた動機

漁業後継者として、魚貝類の漁獲量が目に見えて少なくなり、荒れていく海とホタルが消えていく地域において、農薬や化学肥料の「一振り農業」が環境への負荷が影響していることを危惧し、漁業から農業に転換し経営を開始。

◆こだわる点や技術

循環型農業を目指し、米ぬかなどでボカシ肥料を自家製造。倉庫内に発酵場を設置し、発酵場所のみ直接地面に接し、土壌中の発酵菌を活用している。

ボカシ肥料の発酵場

◆消費者との交流

大阪の生協・消費者の環境保全型農産物や有機農産物の買い支えをしてもらっていることへの御礼から、交流会の開催を実施。

◆これから有機農業をやりたい人へのアドバイス

有機ＪＡＳ農業は、一つの保障であり、販路を確保する保障、消費の強化につながる消費者にわかる制度、多数の書類作成は煩雑だが、有機農産物としての裏付けとして必要である。

◆農林水産省への一言

有機農業、有機ＪＡＳ制度に対する消費者の意識の低さを意識改革してもらえれば、もっと、有機農業への新規参入や消費拡大が進む。

◆主な販売先

有機トマトを地元農協経由で全国の有機農産物専門店などに、「有限会社　肥後あゆみの会」の社名で出荷。有機野トマトを使ったジュースやドライトマトを道の駅などで販売中。

お問い合わせ
電　話　０９６４－３３－７２４０
ＦＡＸ　０９６４－３３－７３４０